

『キリスト者の共同体として』

吉田真司

21 日、ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が亡くなりました。22 日発 NHK WEB ニュースによると、フランシスコ教皇は「貧困や気候変動などの問題に取り組み、各地で続く紛争の平和的な解決を求めたほか、日本の被爆地を訪れて核兵器の廃絶も訴えました。在任中、世界的に貧富の差が拡大しているとして格差の解消を訴え、貧しい人々の救済にあたったほか、難民や移民の保護や気候変動への対応を呼びかけるなど、地球規模の課題解決に向けて積極的に発信してきました。2019 年には、ローマ教皇としては 38 年ぶりに日本を訪れ、被爆地の広島や長崎でスピーチを行い、広島では『核兵器は使うことも持つことも倫理に反する』と述べ、核兵器の廃絶を強く訴えました。2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻については、繰り返し平和的な解決の必要性を呼びかけたほか、2023 年 10 月にイスラエルとイスラム組織ハマスとの戦闘が始まってからは、一刻も早い停戦とガザ地区での人道状況の改善を求めてきました」とありました。◆2019 年 11 月 25 日 (月) 東京ドームで行われたローマ教皇ミサ (5 万人大集会) に参加した時のことを思い出します。プロテスタント諸教派や仏教界代表団ほかの方々と共に参列しました。ミサメッセージでは「不安と競争心という悪循環」「熱狂的に生産性と消費を追い求めることに自分の関心や全エネルギーを注ぐ」「無関心、無感覚」「若者の社会的孤立」「己の利益や利潤のみを追い求める利己主義」という世界を暗くしている課題を取り上げ、「わたしたちはこの世界の主人でも所有者でもない。」「キリスト者の共同体として、わたしたちは、すべてのいのちを守り、あかしするよう招かれている」と語られました。命、環境、格差、次世代といったテーマ、とりわけ核問題に対する警鐘が込められていたように思います。同日、先立って被爆者との会談を終えてのこと、その意識を強く抱いての来日でした。私が参加している外国人の人権運動の文脈で出会った言葉も印象的でした。「わたしたちの家の扉をたたく外国人は皆、イエス・キリストと出会うための一つの機会です」という言葉です。カトリック信者の方々と共に偲び、記憶しておきたいと思います。

教会の定例集会

主日礼拝	日曜日	午前 9:00～10:00 (相模原礼拝)
		午前 10:40～12:00 (会堂礼拝)
教会学校	日曜日	午前 9:30～10:20
(嬰兒、幼児、小学生、中高生、青年、成人、英語、聖書入門の各クラス)		
祈り会	水曜日	午後 7:30～9:00
金曜集会	金曜日	午前 10:30～12:00
家庭集会 (相模原)	第二火曜日	午前 10:00～12:00 (竹村家)
(すずかけ台)	第三木曜日	午後 1:30～3:00 (長谷川家)

日本バプテスト相模中央キリスト教会

〒242-0007 大和市中央林間 4-24-6 TEL&FAX 046 (274) 3708

牧師：吉田真司 音楽・子どもユース担当主事：江原美歌子 協力牧師：斎藤剛毅

<http://www.sccc.sakura.ne.jp>